

平成29年度 神奈川県立病院ヒヤリ・ハット事例及び アクシデントの公表について

神奈川県立病院では、医療の透明性を高め、県民の皆様との信頼関係を築くことはもとより、医療事故のさらなる未然防止を図るため、毎年度ヒヤリ・ハット事例及びアクシデント並びにアクシデント防止対策を公表しています。

このたび、平成29年度の状況について取りまとめましたので、公表します。

1 ヒヤリ・ハット事例 ^(※1) 件数 (件)

レベル	神奈川県立病院
0	140
1	625
2	18
3a	3
計	786

※1 ヒヤリ・ハット事例とは、日常診療の場で、患者に医療又は管理を行う上で、「ヒヤリ」としたり「ハット」とした経験を有する事例（災害等に起因するものを除く）で、アクシデントに至らなかったものをいいます。

2 アクシデント ^(※2) 件数 (件)

レベル	神奈川県立病院
3b	0
4	0
5	0
計	0

※2 アクシデントとは、医療に関わる場所で実施された医療又は管理により、予期せず患者が死亡し、若しくは患者に心身の障害が残った事例又は予期しなかった処置その他の治療を要した事例（災害等に起因するものを除く）をいいます。

(参考) 前年度比較

(件)

	レベル	平成28年度	平成29年度	前年度増減
ヒヤリ・ハット事例	0	102	140	38
	1	628	625	△3
	2	20	18	△2
	3 a	10	3	△7
	計	760	786	26

(件)

	レベル	平成28年度	平成29年度	前年度増減
アクシデント	3 b	0	0	-
	4	0	0	-
	5	0	0	-
	計	0	0	-

3 分析および医療安全対策（病院の特性に応じた取組）

病院では診療の内容や患者の状況に応じて、きめ細かな医療安全対策を実施しています。平成29年度の代表的な事例は次のとおりです。

病院における分析および医療安全対策の取組事例

取組内容	
<p>平成29年12月の新病院棟移転にむけ、患者が入院生活を安心して継続しながら安全に移転できるよう職員が協力して取り組み、円滑に移転することができた。</p> <p>新病院棟移転後は、環境の変化による離院・離棟患者の発生を予測し、離院・離棟者搜索訓練を行い、各所属の搜索範囲や報告体制など初動搜索について確認した。同時に、移転後のアクセスコール受信機や監視カメラの作動状況を確認し、作動が不十分な箇所の調整を行った。</p> <p>新病院棟の外来や訓練フロアのトイレからのナースコール対応については委託部門を含めて共有できるよう取り組み、これらの確認と見直しを行った。また、職員トイレとして緊急コールが設置されていたトイレを実際には患者・家族が使用していることが明らかになり、非常時に備え緊急コールを設置した。</p>	

4 ヒヤリ・ハット事例及びアクシデントの分類レベル指標

区分		内 容
ヒヤリ・ハット事例	レベル0	間違ったことが発生したが、患者には 実施されなかった 場合
	レベル1	間違ったことを実施したが、患者には 変化が生じなかった 場合
	レベル2	実施された医療又は管理により、患者に予期しなかった影響を与えた可能性があり、 観察の強化や検査 の必要性が生じた場合
	レベル3	実施された医療又は管理により、患者に予期しなかった 軽微な処置・治療（※3） の必要性が生じた場合
アクシデント	レベル3	実施された医療又は管理により、患者に予期しなかった若しくは予期していたものを上回る何らかの変化が生じ、 濃厚な処置・治療（※4） の必要性が生じた場合
	レベル4	実施された医療又は管理により、患者の生活に影響する予期しなかった若しくは予期していたものを上回る高度の 後遺症 が残る可能性が生じた場合
	レベル5	実施された医療又は管理により、予期せず患者が 死亡 した場合

※3 薬剤投与等の保存的治療

※4 バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術等

5 公表基準

区 分		公表基準	
ヒヤリ・ハット事例	レベル0	一 括 公 表	個 別 公 表 死亡事例などの重大な案件や、個別公表を実施することで、再発防止に寄与する対策等の推進につながる事例 (レベルにこだわらない)
	レベル1		
	レベル2		
レベル3	a		
	b		
アクシデント	レベル4		
	レベル5		

※医療事故に関しては、医療事故調査制度ガイドライン等の趣旨を踏まえ、上記に準じて扱う。

(問い合わせ先)

社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団
 神奈川リハビリテーション病院 事務部長 小松 一則

電話 046-249-2253

ファクシミリ 046-249-2502